

## みみタロウ

日本語版 75号 2009年4月

ぼごきょうしつ

こうりゆう

ば

## 母語教室は交流の場

親が自分の子どもに自分の言葉を教えたいのは当然のこと。ところが、多くの場合日本に住む外国人の子どもたちは日本語がうまくなると母語を忘れてしまうという悩みを抱えています。今回みみタロウは、昨年4月から草津市、多文化共生支援センター内で開催されている中国語の母語教室「滋賀児童中国語教室」を訪ねました。



「滋賀児童中国語教室」には、土曜日の午後、2歳から小学5年生までの約20名の子どもたちがお父さんやお母さんと一緒に集まります。

子どもたちは年齢や授業内容に応じてグループに分かれて勉強します。絵を見ながら言葉を覚えている年少組。中国詩の暗唱に取り組んでいる年長組。そして日本語の勉強をしている来日間もない生徒さんもあります。9人のスタッフと先生の中には、子どもの保護者もいます。手作りの教材を使いながら熱心に教えていました。

劉穎さんのお話  
「外国人の子どもも日本の学校に入るとある程度



日本語を覚えますが、それに伴って、子どもたちが本来持っている国際的感覚や母語が失われることがとても残念です。とは言え、親が自分の子どもに言葉を教えることは、時間や環境面での難しさに加え、感情が入ってしまいとても難しいものです。そんな悩みを多くの親が抱えていて、どうかしようと思いをかけ合って生まれたのがこの教室です。この教室に来ている子どもたちの文化的背景は様々。中国人同士や日本人と中国人との国際結婚の夫婦の子どもたちはもちろんですが、これまで全く中国語とは縁がなかったたくさんの日本人の子どもたちも中国語を勉強しているんですよ。日本の子どもたちが中国語や中国文化に触れ、将来中国を理解する人が育っていくことは私たちにとっても

大歓迎です。語学の教室以外にも月に一度紙芝居や生け花、ごみ拾いのボランティアなど様々なイベントを皆で企画して楽しんだりもします。母語教室で始めたこの教室がそれだけにとどまらず、日本人の子どもにとっては語学教室であり、国籍を超えた親同士、子ども同士の交流の場にもなっていて、ここからいろんなものが生まれそうでとても嬉しく思っています。ここに乗れない遠方の人たちのためにもいろんな地域でこのような活動が身生えれば、そしてこうした活動の大切さを多くの方々にご理解いただければと願っています。」

子どもたちが勉強している間、保護者は別室で交流を楽しみます。お互いのこと、子育てのこと、日本や中国の文化や生活などの話で大いに盛り上がっていました！

## 保護者の芳々にインタビュー

\* 蘇 震 雯 さん 来日11年目。中国人同士の夫婦で夫婦間の会話は中国語。でも子どもは主に日本語で話しあまり中国語では話しません。ここで勉強して、少しでも中国語を話せるようになったらと思っています。

\* 能 瀬 真 由 美 さん 夫婦共に大の中国好きの日本人で、子どももここで小さいうちから少しでも中国文化を身近に感じてくれたらと思っています。親自身、ここでの中国の方々との交流をとても楽しんでます！

\* 藤 本 智 美 さん 日本人と結婚して来日しました。子どももまだ日本に来て半年。だからここでは唯一日本人の先生に日本語を教えてもらっているんです。私もここでは中国語で話せるし、日本人や中国人の先輩から日本のことを教えてもらって助かっています。

\* 青 木 豊 さん 中国で中国人と結婚。1歳で来日した幸馨ちゃんは今6歳。家ではほとんど日本語ばかりなんですが、将来のこと、奥さんの親戚との絆のことを思うと中国語も大切にしたいと思っています。